

# 民法成立史一斑（八）

——筑波大学附属図書館蔵「穂積文書」採録——

阿部 徹

## 第一部 旧民法関係資料

### 四 債権担保編関係

二六 民法草案債権担保編<sup>①</sup>

民法（草案）

債権担保編

総則

第一条 〔略〕

第二条 義務履行ノ特別ノ担保ハ对人ノモノ有リ物上ノモノ有リ

对人担保ハ左ノ如シ

民法成立史一斑（八）

第一 保証

第二 債務者間又ハ債権者間ノ連帶

第三 任意ノ不可分

物上担保ハ左ノ如シ

第一 留置権

第二 動産質権

第三 不動産質権

第四 先取特権

第五 抵当権

第一部 对人担保

第一章 保証

第三条 〔略〕

## 第一節 保証ノ目的及ヒ性質

第四條 保証ハ或人カ債務者ノ其義務ヲ履行セサルニ於テハ之ヲ履行スルコトヲ諾約スル契約ナリ此約務ハ債務者ノ過失ニ帰ス可キ履行不能ノ場合ニ於テハ債權者ニ賠償スルノ約務ヲ暗ニ包含ス

## 第五條 第七條 (略)

第八條 金額又ハ定マリタル物ニ制限シタル保証ハ其利息ニモ果実ニモ其他ノ附従物ニモ及フコト無シ

然レトモ主タル義務ノ無限ノ保証ハ要約シタル利息、遲延ノ利息其他此債務ノ天然上、法律上又ハ合意上ノ附従物ニ及ヒ又主タル債務者ニ対シテ為シタル最初ノ訴ノ費用及ヒ其訴ヲ保証人ニ告知シタル以後ノ費用ニモ及フ

## 第九條 (略)

第十條 何人ニテモ将来ノ債務ヲ保証スルコトヲ得又債權者又ハ債務者ノ方ニ於テ隨意ノ条件ニ繋カル債務ヲモ保証スルコトヲ得但保証人ニ於テ其債務ノ性質及ヒ広狭ヲ査定スルコトヲ得ルトキニ限ル

第十一條 何人ニテモ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ其不知ニ於テ又其意ニ反シテモ其保証人ト為ルコトヲ得

弁済シタル保証人ノ其債務者ニ対スル求償ノ場合ハ第二節第二款ニ於テ之ヲ規定ス

第十二條 有効ニ保証人ト為ルニハ無償名義ニテ義務ヲ負担

スルノ能力ヲ有スルコトヲ要ス

然レトモ主タル契約カ有償名義ナルトキハ保証人ノ債務者ニ対スル無能力ハ債權者カ之ヲ知りタルトキニ非サレハ保証人ヨリ債權者ニ其無能力ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第十三條 債務ヲ保証スルノ意思ハ之ヲ明示セサルトキハ明

カニ事情ヨリ生スルコトヲ要ス然レトモ其意思ハ契約者ノ一方ヲ他ノ一方ニ勸メ又ハ其一方ノ現在若クハ将来ノ有資力ヲ確言シタル事実ノミヨリ之ヲ推測スルコトヲ得ス

若シ証書ノ署名者中ノ一人カ共同債務者ナルヤ又ハ保証人ナルヤニ付キ疑アルトキハ之ヲ保証人ト看做ス

## 第十四條 (略)

第十五條 債務者カ保証人ヲ立ツ可キ合意ヲ以テ義務ヲ負ヒ

タルトキハ其債務者ハ債務ノ性質及ヒ大小ニ応シ有資力ノ人ニ非サレハ保証人トシテ之ヲ立ツルコトヲ得ス

若シ右ノ保証人カ無資力ト為リタルトキハ債務者ハ前項ト同一ノ条件ヲ具備スル他ノ者ヲ立ツルコトヲ要ス

此他保証人ハ弁済ノ有ル可キ控訴院ノ管轄地内ニ於テ住所ヲ有シ又ハ之ヲ選定スルコトヲ要ス

債權者ヨリ人ヲ指定シテ保証人ヲ要約シタルトキハ本条ノ条件ヲ要セス

## 第十六條 第十七條 (略)

## 第二節 保証ノ効力

第一款 保証人債権者間ノ保証ノ効力

第十八条 第十九条 (略)

第二十条 保証人ハ明示又ハ黙示ニテ財産檢索ノ利益ヲ拋棄シ又ハ主タル債務者ト連帶シテ義務ヲ負担シタルトキハ檢索ノ利益ヲ享ケス

總テノ場合ニ於テ保証人ハ主タル債務ノ基本ヲ争フノ前ニ檢索ノ利益ヲ以テ債権者ニ對抗セサリシトキハ其利益ヲ失フ

第二十一条 檢索ヲ要求スル保証人ハ債務者ノ不動産ニシテ弁済ノ有ル可キ控訴院ノ管轄地内ニ在ルモノヲ債権者ニ指示スルコトヲ要ス

保証人ハ争ニ係ル不動産ヲモ他ノ債権者ニ優先ニテ抵当ト為リタル不動産ヲモ訴追シタル債権者ニ抵当ト為リタル不動産ニシテ第三所持者ノ手ニ存スルモノヲモ指示スルコトヲ得ス

債務者ニ属スル不動産ニ付テハ債務者之ヲ物上担保トシテ既ニ債権者ニ供シタルトキニ非サレハ保証人其檢索ヲ要求スルコトヲ得ス

第二十二条 債権者檢索ノ有効ナル對抗ヲ受ケ其檢索ヲ為スコトヲ怠リテ債務者其後無資力ト為リタルトキハ保証人ハ債権者ノ檢索ニ因リ得タルコト有ル可キ金額ニ滿ツルマテ其義務ヲ免カル

第二十三条 一人ノ債務者ノ為メ數人ノ保証人アルトキハ債

務ハ均一ニテ当然其間ニ分タル但不均一ニテ分別スルコトヲ定メ又ハ其保証人カ或ハ債務者ト共ニ或ハ各自ノ間ニ連帶シテ義務ヲ負担シ若クハ其他ノ方法ニテ分別ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス

保証ノ義務カ各別ノ証書ヨリ生スルトキト雖モ分別ノ利益ハ存在ス

第二十四条 第二十六条 (略)

第二十七条 債務者ニ対シテ時効ヲ中断シ又ハ債務者ヲ遲滯

ニ付スル行為ハ保証人ニ対シテ同一ノ効力ヲ生ス

保証人ニ対シタル右同一ノ行為ハ保証人カ債務者ノ委任ヲ

受ケ又ハ債務者ト連帶シ義務ヲ負担シタルトキニ非サレハ

債務者ニ対シテ効力ヲ生セス

第二十八条 主タル債務者ノ為シタル債務ノ自白ハ保証人ヲ

利シ又ハ之ヲ害ス

保証人ト債権者トノ間ニ為シタル右同一ノ行為ハ債務者ヲ

利ス然レトモ委任又ハ連帶アル場合ニ非サレハ之ヲ害セス

第二款 保証人債権者間ノ保証ノ効力

第二十九条 債権者ヨリ訴追ヲ受ケタル保証人ハ第二十四条

及ヒ財産編第三百九十九条ニ掲ケタル如ク主タル請求ニ対

シテ債務者ノ答弁ヲ要ス可キ場合ニ於テハ其答弁ヲ為サシ

ムル為メ又債務者ノ敗訴ノ言渡ヲ受クル場合ニ於テハ債務

者ニ対シテ次条ニ定メタル賠償ノ言渡ヲ得ル為メ担保附帯ノ請求ヲ以テ債務者ヲ訴訟ニ召喚スルコトヲ得

右担保ノ附帯ノ請求ハ債務者ノ委任ヲ受ケテ義務ヲ負担シタル保証人ノミニ屬ス

第三十条 主タル債務ヲ弁済シ其他自己ノ出捐ヲ以テ債務者ニ義務ヲ免カレシメタル保証人ハ債務者ヨリ賠償ヲ受ケル為メ之ニ対シテ担保訴権ヲ有ス但左ノ區別ニ従フ

第一 保証人カ債務者ノ委任ヲ受ケテ義務ヲ負担シタルトキハ其債務者ニ義務ヲ免カレシメ又ハ債務者ノ名ニテ弁済シタル元利、其担当シタル費用、立替ヲ為シタル時ヨリ其利息其他損害アルトキハ其賠償ノ金額ヲ債務者ヨリ償還セシムルコトヲ得又此委任ノ場合ニ於テ保証人ハ其分限ヲ以テ言渡ヲ受ケタルトキハ直チニ其賠償ヲ受ケル為メ訴ヲ為スコトヲモ得

第二 保証人カ債務者ノ不知ニテ義務ヲ負担シタルトキハ債務者ノ義務ヲ免カレシメタル日ニ於テ之ニ得セシメタル有益ノ限度ニ從ヒ右ノ賠償ヲ受ケ

若シ保証人カ債務者ノ意ニ反シテ義務ヲ負担シタルトキハ保証人ノ求償ノ日ニ於テ債務者ノ為メ存在スル有益ノ限度ニ非サレハ右ノ賠償ヲ受ケルコトヲ得ス

第三十一条 連帯又ハ不可分ニテ責ニ任スル数人ノ債務者ヨリ保証人ニ委任ヲ為シタル場合ニ於テハ其債務者ハ財産取

得編第二百五十五条ニ從ヒ保証人ニ対シテ連帯ノ担保人トアリ

第三十二条 債務者ヲ訴訟ニ参加セシムルコトヲ怠リタル保証人ハ其債務者カ債権者ニ對抗ス可キ排訴抗弁ヲ有シタルコトヲ証スルトキハ第三十条ニ定メタル求償權ヲ有セス若シ債務者カ債権者ニ對抗ス可キ延期抗弁ノミヲ有シタルトキハ懈怠ナル保証人ノ求償ニ対シ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得

第三十三条 保証人ハ有効ニ弁済シタルモ債務者ニ有益ニ其旨ヲ通知スルコトヲ怠リ為メニ債務者カ善意ニテ再ヒ弁済シ其他有償名義ニテ自己ノ免責ヲ得タルトキモ亦其求償權ヲ失フ

右ニ反シテ債務者カ自ラ債務ヲ消滅セシメタルコトヲ保証人ニ通知スルヲ怠リタルトキハ債務者ハ場合ニ從ヒ其債務ノ消滅後保証人ノ為シタル弁済ニ付キ責任アリトノ宣告ヲ受ケルコト有り

孰レノ場合ニ於テモ利害ノ關係アル当事者ハ受取ルコトヲ得サルモノヲ受取リタル債権者ニ対シテ求償權ヲ有ス

第三十四条 (略)

第三十五条 債権者カ完全ノ弁済ヲ受ケサル間ハ前条及ヒ第三十条ニ依リ債務者ヨリ予メ保証人ニ供ス可キ賠償ハ債務者其債権者ニ対スル自己ノ免責ヲ保スル為メ債権者ノ名ヲ

以テ之ヲ供託シ又ハ其他ノ方法ニテ之ヲ留存スルコトヲ得  
第三十六条 主タル債務ヲ弁済シタル総テノ保証人ハ第三十  
二条及ヒ第三十三條ニ定メタル制限ニ從フニ於テハ已レノ

權利ニ基キテ有スル訴權ノ外債務者又ハ第三者ニ對シ債權  
者ノ有シタル總テノ權利ニ付キ財産編第四百八十二條第一  
号ニ從ヒテ代位ス

債權者カ債務者ノ不動産ニ付キ先取特權又ハ抵當權ヲ有シ  
其記入ヲ為シタルトキハ保証人ハ代位ヲ目的トシテ自己ノ  
條件附ノ債權ヲ此記入ノ縁邊ニ附記スルコトヲ得又讓渡ノ  
場合ニ於テハ其不動産ヲ所持スル第三者ハ滌除ノ為メ債權  
者ノ外保証人ニ對シテモ亦提供ヲ為スコトヲ要ス

債權者カ有益ナル時期ニ於テ右ノ記入ヲ為サザリシトキハ  
保証人ハ第四十五條及ヒ財産編第五百十二條ニ從ヒ債權者  
ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條 連帶又ハ不可分ナル義務ノ數人ノ債務者アルト  
キハ保証人ハ其中ノ或者ヲ保証シ他ノ者ヲ保証セザルトキ  
ト雖モ右ノ代位ニ依リ債務者ノ各自ニ對シテ全部ニ付キ求  
償スルコトヲ得

第三款 共同保証人間ノ保証ノ効力

第三十八條、第三十九條 (略)

第四十條 前條ニ依リ訴ヲ受ケタル共同保証人ハ未タ主タル  
債務者ノ財産ノ檢索アラサルトキハ第二十條以下ニ定メタ

ル規則及ヒ條件ニ從ヒテ予メ主タル債務者ノ財産ノ檢索ヲ  
請求スルコトヲ得

右同一ノ權利ハ保証人ノ引受人ニモ屬ス

第四十一條 連帶又ハ不可分ナル債務ノ為メ義務ヲ負擔シタ  
ル數人ノ保証人中全部履行ニ付キ訴ヲ受ケタル者ハ本訴ニ  
附帶シテ共同保証人ヲ擔保ノ為メニ召喚シ之ニ對シ同一ノ  
判決ヲ以テ前數條ニ許サレタル言渡ヲ受シムルコトヲ得

第四十二條 保証人ノ一人ニ對スル時効中断又ハ付遲滯ノ行  
為ハ他ノ保証人ニ對シテ其効ナシ但其義務カ連帶ナルトキ  
ハ此限ニ在ラス

債權者ト保証人ノ一人トノ間ニ主タル債務ニ關シ為サレタ  
ル判決及ヒ自白ハ他ノ保証人ヲ利スルコトヲ得然レトモ之  
ヲ害スルコトヲ得ス

第四十三條 相互ニ連帶シ又ハ債務者ト連帶シタル保証人中  
ニ無資力ト為リタル者アルトキハ各保証人ノ間ニ第六十八  
條、第六十九條及ヒ第七十條ヲ其各條ニ記載シタル區別ニ  
從ヒテ適用ス

第三節 保証ノ消滅

第四十四條 保証ハ義務消滅ノ通常ノ原因ニ由リ直接ニ消滅  
ス

保証ノ更改、免除、相殺及ヒ混同ハ財産編第五百二條、第  
五百十一條、第五百二十條及ヒ第五百三十七條ニ於テ之ヲ

規定ス

第四十五条 債権者カ故意又ハ懈怠ニテ保証人ノ其代位ニ因リテ取得スルコトヲ得ヘキ担保ヲ減シ又ハ危クシタルトキハ保証人ハ債権者ニ対シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得  
 総テ保証人ハ區別ナク又保証人ノ引受人ハ保証人ノ權利ニ基キ右ノ權利ヲ援用スルコトヲ得

第四十六条 保証ハ主タル義務消滅ノ原因ニ由リテ間接ニ消滅ス

債権者ト主タル債務者トノ間ニ為シタル代物弁済、更改、免除、相殺及ヒ混同ノ保証人ニ対スル効力ハ財産編第四百六十二条、第五百一条、第五百六条、第五百二十条及ヒ第五百三十七条ニ於テ之ヲ規定ス

第四節 法律上及ヒ裁判上ノ保証ニ特別ナル規則

第四十七条 法律ノ規定又ハ判決ニ從ヒテ保証人ヲ立ツルノ責アル者ハ自ら保証人ヲ立テント約シタルトキト同一ニシテ第十五条及ヒ第十六条ニ定メタル如キ条件ヲ具備スル保証人ヲ立ツルコトヲ要ス

法律上及ヒ裁判上ノ保証人ヲ承認スルノ手續ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定ス

第四十八条 裁判所ハ法律カ裁判執行ノ為メ保証人ヲ立テシムルノ権能ヲ付与シタル場合ニ非サレハ此カ為メ保証人ヲ立ツ可キヲ命スルコトヲ得ス

第四十九条―第五十条 (略)

第二章 債務者間及ヒ債権者間ノ連帯

総則

第五十一条 (略)

第一節 債務者間ノ連帯

第一款 債務者間ノ連帯ノ性質及ヒ原因

第五十二条 債務者間ノ連帯即チ受方連帯ハ共同債務者ヲシテ其共通ノ利益ニ於テモ債権者ノ利益ニ於テモ相互ニ代人ヲラシム

此連帯ハ合意、遺言又ハ法律ノ規定ヨリ生スルコトヲ得連帯ハ之ヲ推定セス如何ナル場合ニ於テモ明示ニテ之ヲ定ムルコトヲ要ス但不可分ニ関シ第九十条ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第五十三条 (略)

第二款 債務者間ノ連帯ノ効力

第五十四条―第五十五条 (略)

第五十六条 連帯債務者ニシテ債務ニ於ケル全部又ハ自己ノ部分ヨリ多額ニ付キ訴ヘラレタル者ハ共同債務者ヲ訴訟ニ召喚シ附帯ノ担保方法ヲ以テ其債務者ヲシテ答弁又ハ弁済ヲ担任セシムル為メ必要ナル期間ヲ請求スルコトヲ得但債権者ニ対シテハ訴追ヲ受ケタル債務者ノミ其實ニ任ス  
 共同債務者ハ亦其利益保護ノ為メ任意ニ自費ヲ以テ訴訟ニ

參加スルコトヲ得

第五十七條 連帶債務ノ履行ノ爲メ訴ヲ受ケタル各債務者ハ自己ノ權利ニ基クト共同債務者ノ權利ニ基クトヲ問ハス義務ノ組成又ハ消滅ヨリ生スル答弁方法ヲ以テ債務ノ全部ニ付キ債權者ニ對抗スルコトヲ得

右ノ外更改、免除、相殺及ヒ混同ニ関シテハ財産編第五百一條、第五百六條、第五百九條、第五百二十條及ヒ第五百三十四條ノ規定ニ從フ

第五十八條 (略)

第五十九條 前二條ニ規定シタル種種ノ事項ニ付キ債權者ト債務者ノ一人トノ間ニ爲サレタル判決及ヒ自白ハ他ノ債務者ノ利害ニ於テ前二條ニ同シキ限度及ヒ區別ヲ以テ其効力ヲ生ス

第六十條 一人ノ債務者ト他ノ債務者トノ間ニ於ケル連帶ノ成立ノミニ関シテ其一人ト債權者トノ間ニ爲サレタル判決及ヒ自白ハ他ノ債務者ヲ害セス又之ヲ利セス

第六十一條 (略)

第六十二條 若シ連帶債務者ノ一人カ數名ノ相続人ヲ遺シテ死亡シタルトキハ他ノ債務者ノ一人ニ関スル訴追ノ行爲、判決及ヒ自白ハ其各相続人ニ対シ債務ノ全部ニ於ケル其相続部分ノ割合ニ非サレハ効力ヲ生セス  
各相続人ハ亦其相続部分ノ割合ニ非サレハ訴追セラレヌ又

民法成立史一斑(八)

前記ノ行爲ノ効力ヲ受ケス此場合ニ於テ前記ノ行爲ハ亦從來ノ債務者ノ各自ニ対シ同一ノ限度ヲ以テ其効力ヲ生ス  
債權者ト右相続人ノ一人トノ間ニ爲サレタル右同一ノ行爲ハ他ノ相続人ニ対シテ効力ナシ

第六十三條 義務ノ目的物ノ滅失其他總テ義務履行ノ不能カ連帶債務者ノ一人ヲ過失ニ因リ又ハ其付遲滯後ニ生スルトキハ他ノ債務者ハ債權者ニ対シ連帶シテ損害賠償又ハ過怠約款ノ責ニ任ス但過失アリ又ハ遲滯ニ在リシ債務者ニ対スル他ノ債務者ノ求償權ヲ妨ケス

債務者ノ一人カ死亡シタルトキハ他ノ債務者及ヒ死者ノ相続人ノ相互ノ責任ハ前條ノ規定ニ從フ

第六十四條 (略) 成案五六三條一六五條と同二  
第六十七條 共同債務者ノ一人カ上ニ指示シタル方法ノ一二

因リ求償ノ行ハレタル當時ニ於テ無資力ナルトキハ無資力者ノ部分ハ弁済シタル者ヲモ加ヘテ他ノ資力アル者ノ間ニ割合ニ応シテ之ヲ分ツ但要求者ノ責ニ歸ス可キ懈怠アリシトキハ此限ニ在ラス

第六十八條 (略) 成案六七條と同二

第六十九條 債務者ノ一人ノ無資力ト爲リタル前二一分ノ弁済アリタルトキハ債權者ハ弁済殘額ノ爲メニ非サレハ其清算ニ加ハルコトヲ得ヌ又一分ノ弁済ヲ爲シタル他ノ債務者ハ第六十四條ニ從ヒ自己ノ受取ル可キモノヲ弁償セシムル

三四三

為メ清算ニ加ハルコトヲ得

第七十条 何等ノ弁済モ有ラサル前ニ総テノ連帶債務者又ハ其中ノ数人ノ無資力ト為リタル場合ニ於テ債権者ハ其債権ノ全額ニ付キ各清算ニ加ハルコトヲ得

然レトモ債権者カ清算ノ一ニ於テ配当金ヲ受取リタルトキハ他ノ清算ニ於テ其債権ノ全額ニ從ヒ債権者ニ充テタル新配当金ハ以前ノ配当ニ於テ未タ受取ラサルモノノ割合ニ応スルニ非サレハ之ヲ債権者ニ払渡スコトヲ得ス

右払渡ノ残額ハ各清算ニ返還ス但各清算ノ弁済シタルモノノ割合ニ從フ

第三款 債務者間ノ連帶ノ終了

第七十一条 第七十三条 (略。成案七〇条 七二条 同二)

第四款 全部義務

第七十四条 財産編第三百七十八條、第四百九十七條第二項及ヒ其他法律カ数人ノ債務者ノ義務ヲ其各自ニ對シ全部ノモノト定メタル場合ニ於テハ相互代理ニ付シタル連帶ノ効力ヲ適用スルコトヲ得ス但其總債務者又ハ其中ノ一人カ債務ノ全部ヲ弁済スルノ言渡ヲ受ケタルトキモ亦同シ

然レトモ一人ノ債務者ノ為シタル弁済ハ債権者ニ對シ他ノ債務者ヲ免カレシム又弁済シタル者ハ事務管理ノ訴權ニ依リ又ハ債権者ノ代位訴權ニ依リテ他ノ債務者ニ對シ其部分ニ付キ求メ債権ヲ有ス

## 第二節 債権者間ノ連帶

第一款 債権者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因

第七十五条 債権者間ノ連帶即チ働方連帶ハ權利ノ保存及ヒ行使ニ付キ其債権者ヲシテ互ニ代人タラシム

此連帶ハ合意又ハ遺言ヨリ生スルコトヲ得

第七十六条 (略。成案七五条 同二)

第二款 債権者間ノ連帶ノ効力

第七十七条 (略。成案七六条 同二)

第七十八条 債務者ハ債権者ノ一人ヨリ訴追又ハ合式ノ要求ヲ受ケサル間ハ債務ノ全額ノ弁済ヲ受クルコトヲ債権者ノ

各自ニ強要スルコトヲ得之ニ反スル場合ニ於テハ訴追者又

ハ要求者ニ對スルニ非サレハ弁済ヲ為スコトヲ得ス

若シ同時ニ数人ノ訴追者又ハ要求者アルトキハ債務者ハ總

要求者ニ對スルニ非サレハ弁済ヲ為スコトヲ得ス

第七十九条 (略。成案七八条 同二)

第八十条 義務消滅ノ原因ニ基キタル抗弁ニ付キ有リタル判

決ハ左ノ區別ニ從フニ非サレハ訴訟ニ与カラサリシ債権者

ニ對シテ其効ナシ

第一 第七十八条ニ定メタル条件ニ從ヒ債権者ノ一人ニ

為シタル弁済ハ全部ニ付キ總債務者ニ之ヲ以テ對抗ス

ルコトヲ得又財産編第五百二十條第三項ニ記載シタル

如ク債権者ノ一人ニ對シ債務者ノ取得シタル相殺ニ付



テモ亦同シ但相殺ノ原因カ第七十八條ニ從ヒ債務者ヨリ其債權者ニ有効ニ弁済スルコトヲ得ヘキ時期ニ於テ生シタルトキニ限ル

第二 債權者ノ一人ノ行為ヨリ生スル更改、免除及ヒ混同ハ財産編第五百一條第三項、第五百十四條第一項及ヒ第五百三十四條第二項ニ從ヒ其債權者ノ部分ニ非サレハ債務ヲ消滅セシメス但此行為ハ他ノ債權者ノ訴追又ハ要求ノ前ニ在リシコトヲ要ス  
又右同一ノ行為ニ関シ及ヒ弁済又ハ相殺ニ関スル和解ニ付テモ亦同シ

第八十一條 (略。成案八〇條と同二)

第八十二條 債權者ノ一人カ債務者ニ對シテ時効ヲ中断シ又ハ其債務者ヲ遲滞ニ付スルノ行為ハ全部ニ付キ他ノ債權者ヲ利ス

債權者ノ一人ノ利益ニ於テ法律ノ設定シタル時効ノ停止ハ債權ニ於ケル其部分ニ限り其一人ノミヲ利ス

第八十三條 若シ連帶債權者ノ一人カ數人ノ相続人ヲ遺シテ死亡シタルトキハ債權ノ分別及ヒ前ニ指示シタル行為ノ効力ハ第六十二條ニ記載シタル如ク受方連帶ニ於ケルト同一ノ方法ヲ以テ働方ニテ成ル

第八十四條 義務ノ全部又ハ一分ノ履行ヲ得タル連帶債權者ハ他ノ債權者ノ特別ノ關係及ヒ其相互ノ部分ニ從ヒ之ニ其

利益ヲ分ツコトヲ要ス

第三款 債權者間ノ連帶ノ終了  
第八十五條 (略。成案八三條と同二)

第八十六條 連帶ノ拋棄ハ債權者ノ一人若クハ數人又ハ其總員ヨリ之ヲ為スコトヲ得

總債權者ノ働方連帶ノ拋棄ハ第七十一條ニ規定シタル如ク受方連帶ノ拋棄カ共同債務者ニ對シテ生セシムルト同一ノ効力ヲ其債權者間ニ生セシム

若シ債權者ノ一人又ハ數人ノミカ拋棄ヲ為シタルトキハ他ノ債權者ハ此拋棄ヲ為シタル者ノ部分ニ付テノミ訴ヲ為シ又ハ弁済ヲ受クルノ權利ヲ失フ

第八十七條 連帶ノ拋棄ハ債務者ノ承諾ナクシテ有効ナリ

然レトモ其拋棄ハ之ヲ債務者ニ告知セシカ又ハ債務者明確ニ之ヲ知リタルトキニ非サレハ前記ノ規定ヲ以テ債務者ニ許シタル弁済其他ノ行為ニ對シテ債權者ヨリ之ヲ援用スルコトヲ得ス

債務者ハ拋棄ヲ利唱スルノ利益アルトキハ之ヲ利唱スルコトヲ得又拋棄カ其權利ノ詐害ニ於テ為サレタルトキハ之ヲ駁撃スルコトヲ得

第三章 任意ノ不可分

第八十八條 債務ハ財産編第四百四十二條及ヒ第四百四十三條ニ規定シタル不可分ノ外尙未數人ノ債務者ノ負担又ハ數

人ノ債権者ノ利益ニ於テ不可分タルコトヲ得但財産編第四百四十四條ニ指示シタル如ク債務履行ノ担保トシテ受方又ハ働方ノ連帯ニ併合シ又ハ併合セサルコト有リ

此不可分ハ合意又ハ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得之ヲ任意ノ不可分ト謂フ

任意ノ不可分ハ明示タルコトヲ要ス

第八十九條 債務者ノ負担又ハ債権者ノ利益ニ於テ任意ノ不可分ヲ設定シタルトキハ之ト同一ナル性質ノ連帯ヲ暗ニ設定シタルモノト看做ス但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第九十條 〔略。成案八七條と同一〕

第九十一條 受方ナルト働方ナルトヲ問ハス任意ノ不可分ヲ設定シタルトキハ受方又ハ働方ノ連帯ヲ明示ニテ阻却セサル場合ニ限り債務者又ハ債権者ノ間ニ此連帯ノ効力ヲ生セシム

此他債務者又ハ債権者ノ一人カ数人ノ相続人ヲ遺シテ死亡シタルトキハ債務者ノ各相続人ハ全部履行ノ要求ヲ受ケ又債権者ノ各相続人ハ全部履行ノ要求ヲ為スコトヲ得但各各自ノ間ニ於テ連帯ナシ

第九十二條 債務者ノ一人又ハ債権者ノ相続人ノ一人ニ對シテ時効ヲ中断スル原因ハ総債務ニ付キ他ノ債務者又ハ相続人ニ對シテ中断ヲ生ス

又債権者ノ一人又ハ債権者ノ相続人ノ一人ノ權利ヨリ生スル時効ノ中断又ハ其停止ノ原因ハ他ノ債権者又ハ相続人ヲ利ス

第九十三條 相続人ノ一人ノ付遲滯及ヒ過失ハ他ノ相続人ヲ害セス

相続人ノ一人ニ不利ナル既判力及ヒ自白ニ付テモ亦同シ

第九十四條 債権力受方又ハ働方ニテ同時ニ連帯及ヒ不可分ナルトキハ第八十五條及ヒ財産編第五百十條ニ記載シタル區別ニ從ヒ明示ナルト黙示ナルトヲ問ハス連帯ノ拋棄ハ亦任意ノ不可分ノ拋棄ヲ惹起ス

右二箇ノ担保ノ共存スル場合ニ於テ不可分ノ拋棄ハ連帯ヲ存立セシム

第九十五條 財産編第四百四十五條乃至第四百五十條、第五百一條第四項、第五百六條第三項、第五百九條第一項、第五百十三條、第五百十四條第二項、第五百二十條第四項、第五百三十五條及ヒ第五百三十六條第二項ノ規定ハ任意ノ不可分ニ適用スルコトヲ得ヘキトキハ之ヲ適用ス

債権者力不可分ニテ義務ヲ負ヒタル債務者ノ代位ニ因リテ得ルコト有ル可キ担保ヲ減失セシメ又ハ減少セシメタルトキハ其債務者ハ債権者ニ對シテ第七十三條ノ免責ヲ援用スルコトヲ得

## 第二部 物上担保

### 第一章 留置権

第九十六条 留置権ハ財産編及ヒ財産取得編ニ於テ特別ニ之

ヲ規定シタル場合ノ外債権者カ既ニ正当ノ原因ニ由リテ其  
債務者ノ動産又ハ不動産ヲ占有シ及ヒ其債権カ其物ノ讓渡  
ニ因リ或ハ其物ノ保存ノ費用ニ因リ或ハ其物ヨリ生シタル  
損害賠償ニ因リテ其物ニ関シ且其占有ニ連繫シテ生シタル  
トキハ其占有シタル物ニ付キ債権者ニ屬ス

委任ナクシテ他人ノ事務ヲ管理シタル者ハ必要ノ費用及ヒ  
保持ノ費用ノ為メニ非サレハ其管理シタル物ニ付キ留置権  
ヲ有セス

第九十七条 債権者カ留置スルノ権利ヲ有シタル物ノ一分ノ  
ミヲ留置シタルトキ其部分ハ総債務ヲ担保スルニ足ルニ於  
テハ之ヲ担保ス

右ニ反シテ債権者又ハ其相続人ハ債務者又ハ其相続人ヨリ  
一分ノ弁済ヲ受ケタリト雖モ全部ノ弁済ヲ受クルニ至ルマ  
テ留置権ニ服シタル総テノ物ヲ留置スルコトヲ得

第九十八条 (略。成案九四条と同一)

第九十九条 留置権ハ債務者カ留置物ヲ讓渡シ又他ノ債権者  
カ之ヲ差押ヘ及ヒ売却セシムルノ妨ト為ラス

然レトモ孰レノ場合ニ於テモ取得者ハ留置権者ニ全く弁済  
セスシテ其物ヲ占有スルコトヲ得ス

第一百条 右ノ外動産又ハ不動産ノ留置権者ハ次ノ二章ニ規定

シタル如ク動産又ハ不動産ノ質取債権者ト同一ノ責任ニ從  
フ

其他動産質及ヒ不動産質ニ關スル規定ハ此章ノ規定ニ触レ  
サル限りハ留置権ニ之ヲ適用ス特ニ債権者カ有意ニテ留置  
権ヲ行フコトヲ怠リ又ハ實際之ヲ行フコトヲ止メタルトキ  
ハ其留置権ヲ失フ

### 第二章 動産質

#### 第一節 動産質契約ノ性質及ヒ組成

第一百一条 (略。成案九七条、九八条と同一)

第一百三條 動産質ハ其物ヲ処分スルノ能力ヲ有スル者ニ非サ  
レハ有効ニ之ヲ供スルコトヲ得ス

合意上、法律上及ヒ裁判上ノ管理者ニ付テモ亦同シ此等ノ  
者ハ其権限ヲ踰エサルコトヲ要ス

若シ債務ニ關係ナキ第三者ヨリ動産質ヲ供シタルトキハ其  
第三者ハ第十二條ニ記載シタル如ク無償名義ニテ物ヲ処分  
スルノ能力ヲ有スルコトヲ要ス

第一百四條 (略。成案一〇〇条と同一)

第一百五條 法律ニ從ヒ証人ニ依リテ債権ヲ証スルコトヲ得ル  
場合ニ於テハ証書ノ録製ヲ要セス此場合ニ於テハ債権ノ額

及ヒ質物ノ相違ナキコト其性質、価額ヲ或ハ併合シ或ハ各  
別ニ証ヲ以テ証スルコトヲ得

第百六条 (略。成案一〇二条と同一)

第百七条 質物カ債権ノ記名証券ナルトキハ質取債権者ハ其証券ヲ占有スルコトヲ要ス

此他記名証券ノ質ノ設定ハ債権ノ讓渡ヲ告知スル通常ノ方式ヲ以テ第三債務者ニ其設定ヲ告知シ又ハ其第三債務者カ任意ニテ之ニ参加スルコトヲ要ス

此他財産編第三百四十七条ノ規定ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス右ハ総テ裏書ヲ以テ取引ス可キ商証券又ハ商品ノ質ニ関シ商法ニ記載シタルモノヲ妨ケス

第百八条 (略。成案一〇四条と同一)

第百九条 動産質ハ当事者ノ意思ニ從ヒ働方及ヒ受方ニテ不可分ナリ但反對ナル明示ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス動産質ハ債務者又ハ其相続人ノ一人ヨリ債務ノ一分ヲ弁済シタルトキト雖モ元利及ヒ費用ノ皆済ニ至ルマテ質物ノ全部及ヒ各箇ニ於テ存立ス

債権者ノ相続人ノ一人カ自己ノ部分ノ弁済ヲ受ケタルトキト雖モ動産質ハ債権ニ於ケル他ノ相続人ノ部分ノ為メ其相続人ノ担保トシテ全部ニ於テ存立ス

第二節 動産質契約ノ効力

第百十條 質取債権者ハ質物ヲ返還スルマテ其看守及ヒ保存ニ付キ善良ナル管理者ノ注意ヲ加フルノ責アリ

質取債権者ハ債務者ノ許諾ヲ受ケスシテ質物ヲ質貸スルコ

トヲ得ス又債務者ノ許諾ヲ受ケタルトキ又ハ物ノ使用カ其保存ニ必要ナルトキニ非サレハ自ら之ヲ使用スルコトヲモ得ス

若シ質取債権者カ質物ヲ濫用スルトキハ其失權ノ宣告ヲ受クルコト有リ

第百十一條 (略。成案一〇七条と同一)

第百十二條 質物カ果実又ハ産出物ヲ生スルトキハ質取債権者ハ之ニ関シ留置権者ノ為メ第九十八條第二項ニ定メタル權利及ヒ義務アリ

質ト為シタル債権ニ関シテハ質取債権者ハ其利息ヲ收取シ之ヲ自己ノ債権ニ充當ス然レトモ債務者ノ特別ナル委任ヲ受ケスシテ其元本ヲ受取ルコトヲ得ス但裏書ヲ以テ取引ス可キ証券ニ関スルトキハ此限ニ在ラス

第百十三條 質取債権者カ質物保存ノ為メ必要ノ出費ヲ為シタルトキハ其弁償ハ此債権者ノ為メ其債権ニ先チ動産質ヲ以テ之ヲ担保ス

質物ノ隠レタル瑕疵ニ因リテ債権者ノ受ケタル損害ノ賠償ニ付テモ亦同シ

第百十四條 質取債権者ハ動産質ノ附キタル主從ノ債務及ヒ前條ニ從ヒ受取ル可キ金額ノ皆済ニ至ルマテ債務者及ヒ其讓受人ニ對シテ質物ノ占有ヲ留置スルコトヲ得

債権者ハ其債権ノ満期ニ至ラサル間ハ債務者ノ他ノ債権者

ヨリ為ス質物ノ差押及ヒ其競売ニ対抗スルコトヲ得

第百十五條 動産質ノ附キタル債務カ満期ト為リタルトキ債務者履行ヲ為ササルニ於テハ質取債權者又ハ其他ノ債權者ヨリ質物ノ競売ヲ求ムルコトヲ得質取債權者ハ他ノ債權者ニ先タチ元利、費用及ヒ第百十三條ニ掲ケタル賠償金ノ弁済ヲ受ケ

第百十六條 他ノ債權者ヨリ競売ヲ求メス又ハ之ヲ実行スルコトヲ得サルトキ質取債權者ハ質物ヲ已レノ有ト為サントスルコトニ付キ債務者ト一致セサルニ於テハ鑑定人ノ評價シタル価額ニ滿ツルマテ質物ヲ弁済ニ充ツ可キコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其請求書ヲ債務者ニ予メ提示スルコトヲ要ス

質物ノ価額カ債務ヲ超ユル場合ニ於テハ質取債權者ハ債務者ニ其超過額ヲ弁済スルコトヲ要ス

第百十七條、第百十八條 (略) 成案一一三條、一一四條と同一)

第百十九條 質物ノ占有ハ常ニ容返ノ占有ニシテ其占有ノ繼續期ノ如何ニ拘ハラヌ又債務カ弁済其他ノ方法ニテ消滅シタル後ト雖モ質取債權者ハ得取時効ヲ援用スルコトヲ得然レトモ財産編第百八十六條ニ定メタル二箇ノ場合ニ於テハ容返タルコトハ止ム

### 第三章 不動産質

#### 第一節 不動産質ノ目的、性質及ヒ組成

第百二十條 不動産質契約ハ不動産質債權者ニ他ノ總債權者ヨリ先ニ其不動産ノ果実及ヒ入額ヲ收取スルノ權利ヲ付与ス

債務ノ期限ニ至レハ債權者ハ抵当權アル債權者ノ權利ヲ行フ

此期限ハ三十年ヲ超過スルコトヲ得ス之ニ超ユルトキハ当然三十年ニ減縮ス

此期限ハ縱令之ヲ延フルモ前後通算シテ三十年ヲ超過スルコトヲ得ス

第百二十一條 不動産質ハ債務者ノ為メ第三者ヨリ之ヲ設定スルコトヲ得其不動産質ハ債務者ト設定者トノ間ニ於テハ

動産質ノ為メ第百二十二條ニ定メタル効力ヲ生ス

第百二十二條 不動産質ハ第百三條及ヒ第百四條ニ從ヒ抵当ト為スコトヲ得ヘキ權利ノ上ニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス

此他設定者ハ質ト為ス物又ハ權利ノ收益權ヲ自ラ有スルコトヲ要ス其質ハ如何ナル場合ニ於テモ其收益權ノ繼續期間ヲ超過スルコトヲ得ス

不動産質設定ノ為メ必要スル能力ハ第百二十五條及ヒ第百二十六條ニ定メタル抵当設定ノ能力ト同一ナリ

第百二十三條 不動産質カ合意上ノモノナルトキハ其實ハ公

正証書又ハ私署証書ヲ以テスルニ非サレハ当事者ノ間ニ之ヲ設定スルコトヲ得ス

又不動産質ハ第二百十八條ニ從ヒ遺言上ノ抵当ノ許サルル場合ニ於テハ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得

不動産質ハ之ヲ設定スル証書又ハ遺言書ヲ財産編第三百四十八條第一号及ヒ第三号ニ從ヒテ登記シタル後ニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

右ノ登記ハ抵当ノ順位ヲ保存スル為メ記入ニ同シキ効力ヲ有ス

第二百二十四條 登記ス可キ証書又ハ遺言書ニハ質ト為シタル不動産ノ精確ナル指示ノ外元利ノ債權額ヲ記載スルコトヲ要ス

右ノ指示カ不十分ナル場合ニ於テハ既ニ為シタル登記ノ縁辺ニ補足ノ合意ヲ附記シテ之ヲ補フ然レトモ此附記ハ其日附後ニ非サレハ効力ヲ生セス

第二百二十五條 質ト為シタル物權カ利益權、賃借權又ハ永借權ナルトキハ此權利ノ設定証書ノ登記ノ縁辺ニ其質權ヲ附記スルヲ以テ足レリトス

第二百二十六條 質取債權者ハ右ノ外不動産質ニ関シ第六六條ニ記載シタル如ク其債權ヲ担保スル不動産ヲ現実ニ占有スルコトヲ要ス

第二百二十七條 不動産質ハ不動産質ニ関シ第九九條ニ記載シタ

ル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分タリ

## 第二節 不動産質ノ効力

第二百二十八條 質取債權者ハ其債權ノ担保ノ為メ受取リタル不動産ヲ財産編第一百九條乃至第二百二十二條ニ規定シタル制限ニ從ヒ且質契約ノ期間ニ限り質貸スルコトヲ得但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

又質取債權者ハ自己ノ權利ノ繼續期間ニ限り不動産質ニ関シ第一百十一條ニ記載シタル如ク自己ノ責任ヲ以テ其不動産質ヲ讓渡スコトヲ得

第二百二十九條 質取債權者ハ租稅其他毎年ノ公課ヲ負擔ス質取債權者ハ小修繕及ヒ必要且急迫ナル大修繕ヲ為スノ責ニ任ス若シ此ニ違フトキハ損害賠償ヲ負擔ス但此大修繕ノ費用ハ債務者之ヲ償還ス

第三十條 質カ建物、宅地ニ存スルトキハ債權者ハ自ラ之ヲ領スルト之ヲ質貸スルトヲ問ハス其借賃ヲ自己ノ債權ノ利息ニ充當シ又超過額アルトキハ附隨ニテ又ハ債權カ利息ヲ生セサルトキハ全部ニテ元本ニ充當ス

質カ田畑山林ニ存スルトキハ当事者ノ間ニ於テ果実ト利息トハ計算セスシテ相殺シタルト看做ス但反對ノ合意アルトキ又他ノ債權者ニ対シ又ハ利息ノ法律上ノ制限ニ付キ顯著ナル詐害アルトキハ此限ニ在ラス

借賃又ハ果実ヲ利息ニ充當スルニハ毎年ノ公課及ヒ保持、

管理、栽培ノ費用ヲ扣除シタル純益価額ニ付キ之ヲ為ス

第三百三十一條 建物、宅地ノ質取債権者ハ如何ナル反對ノ合意アルニ拘ハラズ常ニ己レノ為メ負担重キニ過クルト見ユル収益権ヲ將來ニ向ヒテ抛棄シ抵当権ノミヲ存スルコトヲ得然レトモ適當ノ時期ニ非サレハ之ヲ為スコトヲ得ス

田畑山林ノ質取債権者ハ其抵当権ヲ併セ失フニ非サレハ収益権ヲ抛棄スルコトヲ得ス

第三百三十二條 債権者ハ債務ノ皆済ニ至ルマテ質ニ取リタル不動産ノ占有ヲ留置スルコトヲ得

然レトモ質取債権者ハ債務ノ満期前又ハ満期後ニ熟議ヲ以テスルト競売ヲ以テスルトヲ問ハズ債務者又ハ他ノ債権者ヨリ求メタル売却ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス

又質取債権者ハ満期後自ラ売却ヲ申立ツルコトヲ得右ハ下ニ指示シタル異別ノ効力ヲ生ス

第三百三十三條 他ノ債権者又ハ債務者ヨリ求メタル売却ノ場合ニ於テハ質取債権者ハ其順位ニ於テ其抵当権ヲ行ヒ且其債権者カ如何ナル先取特権又ハ抵当権アル他ノ債権者ニモ先ンセラレサルトキ又ハ先ンセラルルモ他ノ債権者カ総テノ代価ヲ取尽サスシテ残余アルトキハ取得者ハ質取債権者ノ尚ホ受ク可キモノノ為メ第三百二十條ニ從ヒ質ノ終了ス可キ時期ニ至ルマテ留置権ニ遵フノ責アリ

先取特権者クハ抵当権アル他ノ債権者又ハ質取債権者ノ請

求ニ因リテ増加競売ノ有リタル場合ニ於テモ亦同シ

第三百三十四條 第一百十條、第一百十三條、第一百十四條及ヒ第十七條乃至第一百十九條ハ不動産質ニモ之ヲ適用ス

#### 第四章 先取特権

##### 総則

第三百三十五條 先取特権ハ或ル債権ノ原因ニ附着シタル優先権ナリ但動産質及ヒ不動産質ニ関シ合意ヨリ生スル先取特権ハ此限ニ在ラス

先取特権ハ法律ノ制限シテ定メタル原因、条件及ヒ目的物ニ於ケルニ非サレハ存立セス

先取特権カ第三所持者ニ對シテ追及權ヲ付与スル場合及ヒ其權利行使ノ条件モ亦法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三百三十六條 先取特権ハ動産質及ヒ不動産質ニ関シ第九條及ヒ第二百二十七條ニ記載シタル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分ナリ

第三百三十七條 先取特権ノ負擔アル物カ第三者ノ方ニテ滅失シ又ハ毀損シ第三者此カ為メ債務者ニ賠償ヲ負擔シタルトキハ先取特権アル債権者ハ他ノ債権者ニ先タチ此賠償ニ於ケル債務者ノ權利ヲ行フコトヲ得但其先取特権アル債権者ハ弁済前ニ合式ニ払渡差押ヲ為スコトヲ要ス

先取特権ノ負擔アル物ヲ売却シ又ハ質貸シタル場合及ヒ其物ニ関シ債務者ニ金額又ハ有価物ヲ弁済ス可キ総テノ場合

ニ於テモ亦同シ但災害ノ場合ニ於テ保險者ノ負担スル賠償  
ニ関シ財産編第九十一条ニ記載シタルモノヲ妨ケス

第三百三十八條 先取特權ノ種類ハ左ノ如シ

- 第一 債務者ノ総動産及ヒ附隨ニテ其総不動産ニ係ル一  
般ノ先取特權
- 第二 或ル動産ニ係ル特別ノ先取特權
- 第三 或ル不動産ニ係ル特別ノ先取特權

第三百三十九條 一般又ハ特別ノ先取特權ヲ有スル債權者ノ相  
互ノ順位ハ本章ノ各節ニ於テ之ヲ規定ス

不動産ニ付キ先取特權ヲ有スル債權者ハ其同一ノ不動産ニ  
付キ抵當權ヲ有スル債權者ニ先タツ但法律ニ於テ特別ニ規  
定シタル場合ハ此限ニ在ラス

同名義又ハ同順位ノ先取特權アル債權者ハ其債權額ノ割合  
ニ応シテ弁済ヲ受ク

第四百十條 本法ニ定メタル先取特權ハ各人又ハ国库ノ為メ  
商法又ハ特別法ヲ以テ規定シ又ハ規定ス可キ先取特權ノ妨  
ト為ラス

商法又ハ特別法ノ先取特權ハ別段ノ規定ナキ場合ニ於テハ  
下ニ定メタル一般ノ規則ニ從フ

- 第一節 動産及ヒ不動産ニ係ル一般ノ先取特權
- 第一款 一般ノ先取特權ノ原因

第四百十一條 動産及ヒ不動産ニ係ル先取特權アル債權ハ左

ノ如シ但下ニ定メタル制限及ヒ条件ニ從フ

- 第一 訴訟費用
- 第二 葬式費用
- 第三 最後疾病費用
- 第四 雇人給料
- 第五 飲食品供給

第一則 訴訟費用ノ先取特權

第四百十二條 訴訟費用ノ先取特權ハ或ハ債務者ノ財産ヲ保  
存スル為メ或ハ其財産ヲ清算シ之ヲ換価シ及ヒ有權者間ニ  
其代価ヲ配當スル為メ各債權者ノ共同利益ニ於テ正當ニ為  
セル裁判上若クハ裁判外ノ總テノ行為ニ付キ金錢ノ立替ヲ  
為シタル債權者又ハ給料若クハ謝金ヲ受取ル可キ債權者ニ  
屬ス

債權者ニ有益ナラサリシ費用ニ付テハ先取特權ハ特別ノモ  
ノニシテ其費用ノ為メ利益ヲ得タル債權者ニ対スルニ非サ  
レハ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第二則 葬式費用ノ先取特權

第四百十三條 債務者ノ身分ニ応シ且慣習ニ從ヒテ為シタル  
葬式費用ハ先取特權アルモノトス  
先取特權ハ債務者ノ担当タル其同居ノ親屬ノ葬式費用ニモ  
亦之ヲ適用ス

其先取特權ハ葬式ニ連続シタル出費ニ及ハス縱令其出費カ



慣習上ノモノタルモ亦同シ

第三則 最後疾病費用ノ先取特権

第四百四十四條 最後疾病費用ノ先取特権ハ債務者又ハ前条ニ指定シタル親屬ノ死亡前ノ疾病ニ関スル医師、藥商、看病人其他ノ費用ヲ包含ス但債務者ノ破産前又ハ無資力前ノ疾病及ヒ其親屬ノ疾病ニ関スルモノモ亦同シ

長病ノ場合ニ於テハ右ノ費用ノ先取特権ハ最後ノ一年ノ費用ニ之ヲ制限ス

債務者又ハ其親屬カ右ノ費用ヲ生セシメタル疾病ノ外ナル原因ノ為メ死亡シタルトキト雖モ先取特権ハ猶ホ存ス

第四則 雇人給料ノ先取特権

第四百四十五條 雇人ノ先取特権ハ債務者又ハ其同居ノ親屬ノ

一身ニ附屬シ或ハ債務者ノ家屋其他ノ所有物ニ附屬シタル雇人ニ屬ス

右ノ先取特権ハ最後ノ一年ノ給料ノミヲ担保ス

第五則 飲食品供給ノ先取特権

第四百四十六條 飲食供給ノ先取特権ハ債務者又ハ其同居ノ親屬及ヒ雇人ニ供給シタル生活ニ必要ナル飲食品ノミニ之ヲ適用ス

右ノ先取特権ハ最後ノ六ヶ月間ノ供給ノミヲ包含ス

第二款 一般ノ先取特権ノ効力及ヒ順位

第四百四十七條 一般ノ先取特権ハ先取特権アル各債權者カ動

産ニ付キ配當ヲ受ケ尙ホ不足アルニ非サレハ不動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

然レトモ動産代価ノ配當ニ先タチ不動産代価ノ配當アルトキハ債權者ハ条件附ニテ不動産代価配當ニ加入スルコトヲ得但此配當加入ニ於テハ日後動産代価ノ配當加入ニ於テ併濟ヲ受ケサルモノノミヲ受ク

動産代価ノ配當ニ有益ナル時期ニ出席スルコトヲ怠リタル債權者ハ動産ニ付キ受ク可カリシモノノ限度ニ於テ不動産ニ付キ其優先權ヲ失フ

第四百四十八條 一般ノ先取特権ノ互ニ競合スル場合ニ於テハ

第四百四十二條乃至第四百四十六條ニ列記シタル相互ノ順序ニ從ヒテ配當加入ヲ定ム

右ノ数條ニ掲ケタル同名義ノ債權ハ同順位ニテ配當ニ加入ス

若シ一般ノ先取特権カ動産ニ係ル特別ノ先取特権ト競合スルトキハ其順位ハ下ノ第二節ニ於テ之ヲ規定ス

不動産ニ係ル特別ノ先取特権ハ一般ノ先取特権ニ先タチ又特別ノ抵當ハ後ノ設定ニ係ルト雖モ許害ナキニ於テハ一般ノ先取特権ニ先タツ

然レトモ一般ノ先取特権ハ其發生前ノ取得ニ係ル一般ノ抵當ニモ先タツ

一般ノ抵當ノ負擔アル総不動産ヲ同時ニ売却シタル場合ニ

於テハ一般ノ先取特權ハ各不動産ノ売却代価ノ割合ニ応シテ其総不動産ニ付キ配當ニ加入ス

若シ順次ニ右ノ不動産ヲ売却スルトキハ一般ノ先取特權ハ初ノ売却ニ付キ全部之ヲ充當シ尙ホ附隨ニテ次ノ売却ニ付キ之ヲ充當ス且此先取特權ヲ負擔セシ不動産ニ付キ一般ノ抵當ヲ有スル債權者ハ他ノ不動産ノ売却代価ニ付キ求償權ヲ有ス

第四百九条 一般ノ先取特權ハ不動産カ債務者ニ屬スル間ハ他ノ債權者ニ對抗スル為メ其不動産ニ付テノ記入ヲ要セス

## 第二節 動産ニ係ル特別ノ先取特權

第一款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的

第五十条 上ノ第二章ニ規定シタル先取特權ヲ有スル動産質取債權者ノ外下ニ指定シタル動産物ニ付キ先取特權ヲ有スル債權者ハ左ノ如シ

- 第一 不動産ノ賃貸人
- 第二 種子及ヒ肥料ノ供給者
- 第三 農業ノ稼人及ヒ工業ノ職工
- 第四 動産物ノ保存者
- 第五 動産物ノ売主
- 第六 旅店主人

第七 舟車運送營業人

第八 保証金ヲ供スルノ義務アル公吏ノ職務上ノ所為ニ對スル債權者

第九 右保証金ノ貸主

第一則 不動産賃貸人ノ先取特權

第五十一条 居室、倉庫其他ノ建物ノ賃貸人ハ賃借人ノ使用又ハ商工業ノ為メ此建物内ニ備ヘタル動産物ニ付キ先取特權ヲ有ス

右ノ動産物カ賃借人ニ屬セスト雖モ先取特權ハ猶ホ存ス但賃貸人カ賃貸場所ニ此動産物ノ持込ヲ知りタル當時其物ノ賃借人ニ屬セサル事實ヲ知ラス且其事實ヲ予見スルニ足ル可キ理由アラサリシトキニ限ル

賃貸人ノ先取特權ハ現金ニ付キ又賃借人及ヒ其家屬ノ一身ノ使用ニ供シタル金玉宝石ニ付キ又無記名ナルモ証券ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

第五十二条 賃貸人ハ家賃ノ当期分及ヒ後ノ一期分ノ弁済ヲ担保スルニ足ル可キ動産ヲ賃貸シタル場所ニ備フルコトヲ賃借人ニ要求スルコトヲ得賃借人之ヲ為サス且此家賃ノ前払又ハ之ニ相當スル其他ノ担保ヲ供セサルトキハ賃貸人ハ賃貸借ヲ銷除スルコトヲ得

尚ホ損害アルトキハ其賠償ヲ求ムルコトヲ得  
賃貸場所ニ備ヘタル動産ヲ賃貸人ノ許諾ナクシテ取去リタ

ルモ別ニ詐害ナキニ於テハ質貸人ハ其担保力不足ト為リタルトキ且質借人ニ属スル權利ノ限度内ニ非サレハ此動産ヲ其場所ニ復セシムルコトヲ得ス

然レトモ質貸人ノ權利ヲ詐害シテ為シタル行為ニ付テハ質貸人ハ財産編第三百四十一条以下ニ記載シタル条件及ビ區別ニ從ヒ第三者ニ対シテ其行為ヲ廢罷セシムルコトヲ得  
右ハ総テ第三百三十七条ニ依リテ質貸人ノ有スル權利ヲ妨ケス

第五百三十三條 質貸借ト永貸借トヲ問ハス田畑山林ノ質貸人ハ質借人カ居宅并ニ土地利用ノ建物内ニ備ヘタル動産ニ付キ及ヒ土地ノ利用ニ供シタル動物、農具其他ノ器具ニ付キ上下同一ノ限度ニ於テ先取特權ヲ有ス

右ノ質貸人ハ質貸シタル土地ノ收穫物其他ノ產出物カ猶ホ土地ニ附着スルト土地ニ保存シ有ルトヲ問ハス其收穫物及ヒ產出物ニ付キ先取特權ヲ有ス

分果質貸人ハ質貸シタル土地ノ收穫物其他ノ產出物ノ中ニテ自己ノ權利ヲ有スル部分カ猶ホ分果小作人ノ方ニ存スル間ハ他ノ債權者ニ先タチ直接ニ其收穫物其他ノ產出物ヲ己レノ有トシテ先取特權ヲ行フ

第五百三十四條 永貸借ト質貸借ト分果小作トヲ問ハス質借人ハ質貸人ノ求アルニ於テハ其担保ノ為メ其年ノ收穫物其他ノ產出物ヲ保存スルノ責アリ

第五百三十二條ヲ以テ質貸人ノ利益ニ於テ定メタル隱匿物ノ取戻權及ヒ質貸借ノ銷除權ハ田畑山林ノ利用ニ供シタル物ノ質貸借ニ之ヲ適用ス

第五百三十五條 質借權ノ讓渡又ハ転貸ノ場合ニ於テハ質貸人カ質貸場所ニ備ヘ有ル動産ノ讓受人又ハ転借人ニ属スルコトヲ知ルト雖モ其先取特權ハ此等ノ物ニ及フ

此場合ニ於テ先取特權ハ第三百三十七条ニ從ヒ讓渡又ハ転貸ノ代価トシテ主タル質借人ノ受取ル可キ金額ニ及フ但前払ヲ以テ質貸人ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百三十六條 質借人ノ財産ノ総清算ノ場合ニ於テハ質貸人ハ土地、建物ノ借賃其他毎年ノ負擔ニ付キ前年、本年及ヒ翌年ノ分ニ非サレハ前數條ニ定メタル先取特權ヲ有セス

此他先取特權ハ質貸借ヨリ生スル他ノ合意上ノ義務、前年及ヒ本年ニ於テノ質借人ノ過失又ハ懈怠ノ為メ質貸人ノ受ク可キ賠償及ヒ質貸人カ將來ニ向ヒテ請求スルコト有ル可キ銷除ニ添ヒタル損害賠償ヲ担保ス

第五百三十七條 右清算ノ場合ニ於テ他ノ債權者ハ自己ノ利益ノ為メ質貸借ノ銷除ヲ防止シ及ヒ初ヨリ転貸又ハ讓渡ノ禁止アルニ拘ハラス其質借權ヲ転貸シ又ハ讓渡スルコトヲ得但質貸借殘期ノ為メ質貸人ニ土地、建物ノ借賃其他ノ納額ヲ担保スルコトヲ要ス

第二則 種子及ヒ肥料ノ供給者ノ先取特權

第五百五十八條 〔略。成案一五三條と同一〕

第三則 農業稼人及ヒ工業職工ノ先取特權

第五百五十九條 雇人ノ外其年ノ收穫ノ為メ勞動シタル稼人ハ

一 一个年間ノ給料ノ為メ其收穫物ニ付キ先取特權ヲ有ス

又工業ノ職工ハ産出物又ハ製造品ニ付キ先取特權ヲ有ス但  
其年ノ給料中最後ノ三ヶ月間ノ為メノミニ限ル

第四則 動産物保存者ノ先取特權

第一百六十條 動産物ノ修繕又ハ保存ノ費用ニ付テノ債権者ハ

第九十六條ニ従ヒ己レニ属スル留置權ヲ行ハサルトキト雖

モ其修繕又ハ保存シタル物ニ付キ先取特權ヲ有ス

右ノ先取特權ハ金額、有価物其他動産物ニ関スル人権又ハ  
物權ヲ債務者ノ為メニ追認シ保存シ又ハ実行セシメタル裁  
判上又ハ裁判外ノ行為ノ費用ニ之ヲ適用ス

第五則 動産物売主ノ先取特權

第一百六十一條 動産物ノ売主ハ代価弁済ノ為メ期限ヲ許与シ

タルト否トヲ問ハス其代価及ヒ利息ノ為メ売却物ニ付キ先

取特權ヲ有ス

若シ補足額ヲ以テスル交換アリテ其補足額カ譲渡シタル物

ノ価額ノ半ヲ超ユルトキハ先取特權ハ其補足額ノ為メ交換

物ニ付キ存立ス

第一百六十二條 〔略。成案一五七條と同一〕

第一百六十三條 売主ノ先取特權ハ財産取得編第五十三條及ヒ

第八十八條ニ規定シタル留置及ヒ解除ノ權利ヲ妨ケス

第六則 旅店主人ノ先取特權

第一百六十四條 〔略。成案一五九條と同一〕

第七則 舟車運送營業人ノ先取特權

第一百六十五條 舟車運送營業人ハ荷物又ハ旅客ノ運送賃ノ為

メ及ヒ関稅其他正当ナル附従ノ費用ノ為メ自己ノ手ニ存ス

ル運送物ニ付キ先取特權ヲ有ス

運送營業人カ運送物ノ引渡ヨリ四十八時間内ニ債務者又ハ

其名ヲ以テ其物ヲ受取リタル者ニ対シ其物ヲ返還スルヤ運

送賃其他ノ費用ヲ弁済スルヤノ催告ヲ為シ且其効果ヲ生セ

シムル為メ短キ時間内ニ裁判上ノ請求ヲ為シタルトキハ其

先取特權ハ物ノ引渡後ト雖モ存続ス

如何ナル場合ニ於テモ第三取得者ニ対シテ物ヲ回復スルコ

トヲ得ス但第一百五十二條ニ規定シタル如ク詐害アル場合ハ

此限ニ在ラス且第三百七十七條ノ適用ヲ妨ケス

第八則 職務上ノ所為ニ対スル債権者ノ先取特

權

第一百六十六條 保証ヲ供スルノ義務アル公吏ノ職務上ノ過失

又ハ濫妄ヨリ生スル債権ハ其保証金ニ付キ先取特權アリ

第九則 保証金貸主ノ先取特權

第一百六十七條 〔略。成案一六二條と同一〕

第二款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ順位

第百六十八條 動産ニ係ル特別ノ先取特權ト一般ノ先取特權ト競合スルトキハ優先ノ順序ヲ左ノ如ク規定ス

第一 訴訟費用ハ其費用ノ有益タリシ総債權者ニ先タツ

但有益ノ限度又ハ割合ニ從フ

第二 此他四箇ノ一般ノ先取特權ハ第百四十一條ニ定メ

タル順序ヲ以テ總テノ特別ノ先取特權ニ先タツ但特別

ノ先取特權ニ服セサル他ノ動産ノ不足ナル場合ニ限ル

第百六十九條 [略。成案一六四條と同一]

第三節 不動産ニ係ル特別ノ先取特權

第一款 不動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ

目的物

第百七十條 左ノ債權者ハ下ニ定メタル債權ノ為メ其条件ニ

從ヒ不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス

第一 売買、交換其他有償ノ行為ニ因リ又無償ナルモ負

担ヲ帶フル行為ニ因リテ不動産ヲ讓渡シタル者ハ其讓

渡シタル不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス

第二 共同分割者ハ分割中ニ包含シタル不動産ニ付キ先

取特權ヲ有ス

第三 工匠、技師及ヒ工事請負人ハ工事ニ因リテ不動産

ニ生シタル増価ニ付キ先取特權ヲ有ス

第四 先取特權ヲ生セシムル行為ノ当時讓渡人、共同分

割者、工事請負人ニ支払ヒタル金銭ノ貸主ハ右同一ノ

民法成立史一斑(八)

不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス

第五 死亡者ノ遺産ト相続人ノ資産トノ分離ヲ請求スル

相続ノ債權者及ヒ受遺者ハ相続ノ不動産ニ付キ先取特

權ヲ有ス

第一則 讓渡人ノ先取特權

第百七十一條 讓渡人ノ先取特權ハ左ノ各人ニ屬ス

第一 売買ノ代価及ヒ利息其他ノ負担ニ付テハ売主

第二 交換ノ補足額、負担及ヒ交換物ノ追奪担保ニ付テ

ハ交換者

第三 贈与ノ負担ニ付テハ贈与者又ハ其承継人

此他有償又ハ無償名義ノ不動産讓渡人ハ一般ニ其対価及ヒ

負担ニ付キ先取特權ヲ有ス

第百七十二條 売買代価、交換補足額ノ外売買、交換、贈与

ノ負担及ヒ交換其他有償名義ノ合意ニ於ケル追奪担保ノ未

定ノ賠償ハ讓渡ノ証書又ハ日後ノ証書ヲ以テ金銭ニテ之ヲ

定ムルコトヲ要ス

此他右ノ証書ハ次款ニ記載スル如ク之ヲ公示スルコトヲ要

ス

第百七十三條 交換其他不動産ノ讓渡ノ対価トシテ受取りタ

ル不動産ノ追奪担保ノ為メノ先取特權ハ其追奪力讓渡ノ時

ヨリ十年内ニ生シ且廢罷ス可カラサル判決ヨリ一年年内

ニ担保ノ請求ヲ為シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ存立セ

ス  
 対価トシテ受取りタル動産ニ関シテハ担保ノ為メノ先取特  
 権ハ追奪カ一个年内ニ生シ且廢罷ス可カラサル判決ヨリ一  
 个月内ニ請求ヲ為シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ存立セ  
 ス

### 第二則 共同分割者ノ先取特権

第百七十四条 相続人、社員其他ノ共有者ハ或ハ抽籤ノ方法  
 或ハ合意上ノ指定或ハ不分割物競売ニ因レル分割ヨリ生スル  
 左ノ債権ノ為メ其分割ニ於テ各自ノ得タル不動産ニ付キ互  
 ニ先取特権ヲ有ス

第一 補足額ノ為メ又ハ配当ノ過分ノ為メニハ之ヲ負担  
 セル分割者ニ帰シタル不動産ニ付キ先取特権アリ

第二 不分割物競売ノ代価ノ為メニハ其競売シタル不動産  
 ニ付キ先取特権アリ

第三 分割者ノ一人カ其配当部分ノ動産又ハ不動産ニ於  
 テ受ケタル追奪ノ担保ノ為メニハ他ノ分割者ニ帰シタ  
 ル総不動産ニ付キ先取特権アリ但債務ニ於ケル各分割  
 者ノ部分ニ限ル

第百七十五条 右ノ担保ハ左ノ諸件ニ之ヲ適用ス

第一 相続人又ハ社員ニシテ他ノ相続人又ハ社員ニ対シ  
 補足額又ハ不分割物競売ノ代価ヲ負担シタル者ノ無資力  
 第二 分割者ノ一人ノ配当部分ニ債権ヲ充テタルトキ其

債務者ノ無資力但其債務者ハ分割者タルト外人タルト  
 ヲ問ハス分割ノ当時無資力タリシコトヲ要ス  
 第百七十六条 第百七十三条ハ分割者間ノ追奪担保ノ先取特  
 権ニ之ヲ適用ス

分割者タルト否トヲ問ハス債務者ノ無資力ニ関シテハ其担  
 保ハ元本ニ於ケル債務ノ満期ヨリ一个年内ニ請求ヲ為シ之  
 ヲ公示シタルトキニ非サレハ当事者ノ間ニテモ第三者ニ対  
 シテモ之ヲ負担セシムルコトヲ得ス

債務カ無期又ハ終身ノ年金権タルトキ債務者ノ無資力カ分  
 割ノ日ヨリ十年後ニ生スルニ於テハ其担保ノ負担ハ止ム  
 債務カ利息ヲ生スル元本ニシテ其満期カ十年以上ニ及フ  
 トキモ亦同シ

### 第三則 工匠、技師及ヒ工事請負人ノ先取特権

第百七十七条 工匠、技師及ヒ工事請負人ハ建物、堤塘若ク  
 ハ掘割ノ築造若クハ修繕又ハ地上ニ為シタル排泄、灌溉、  
 開墾、置土其他之ニ類似スル工事ヨリ生スル債権ノ為メ先  
 取特権ヲ有ス

右ノ先取特権ハ鉞坑及ヒ石坑ノ開掘、利用、閉鎖又ハ廢止  
 ニ関スル地下又ハ外部ノ工事ノ為メ工匠、技師及ヒ工事請  
 負人ニ属ス

第百七十八条 右ノ工事ヨリ生スル先取特権ハ其工事ニ因リ  
 土地又ハ建物ニ加ヘタル増価ニシテ先取特権行使ノ当時猶

ホ存在スルモノノミニ付キ存立ス

右ノ増価ハ裁判所ノ選定シタル鑑定人ノ作レル三箇ノ調査ヲ以テ之ヲ証スルコトヲ要ス

此第一調査ハ工事ヲ始ムル前ニ之ヲ作りテ場所ノ現状ヲ明定シ且日論見タル工事ノ概略ヲ指示スルコトヲ要ス

此第二調査ハ工事ノ竣成ヨリ又ハ原因ノ如何ヲ問ハス其工事ノ絶止ヨリ三ヶ月内ニ之ヲ作り且其工事ヨリ現ニ生スル増価ヲ証スルコトヲ要ス

此第三調査ハ配当加入ノ請求ノ当時之ヲ作り且右増価ノ存在スルモノヲ証スルコトヲ要ス

第四則 金銭貸主ノ先取特権  
第百七十九条 (略。成案一七六条と同一)

第五則 資産分離ノ先取特権

第百八十条 相続ノ債権者及ヒ受遺者カ死亡者ノ遺産ト相続人ノ資産トノ分離ヲ請求スルノ権利ヲ行フニ付キ服従ス可キ条件ハ相続ノ事項ニ於テ之ヲ規定ス

第百八十一条 資産分離ヲ請求シタル債権者並ニ受遺者ノ先取特権ハ債務者ノ所為ニ因リ又ハ其権利ニ基キ且其費用ヲ以テ不動産ニ加ヘタル増加及ヒ改良ニ及ハス

右ノ規定ハ不動産ノ譲渡人又ハ分割者ノ先取特権ニ之ヲ適用ス

第二款 不動産ニ係ル特別ノ先取特権ノ債権者間

民法成立史一斑(八)

ノ効力及ヒ順位

第百八十二条 (略。成案一七七条と同一)

第百八十三条 売買代価ノ為メノ売主ノ先取特権及ヒ補足額ノ為メノ交換者ノ先取特権ハ代価又ハ補足額ノ全部又ハ一分ヲ未タ弁済セサル旨ヲ記シタル所有権移転証書ノ登記ヲ以テ之ヲ保存ス

又交換ニ於ケル追奪担保ノ為メ及ヒ売買、交換其他所有権移転契約ノ附従負担ノ為メノ先取特権ハ証書ノ登記ヲ以テ之ヲ保存ス但担保及ヒ負担ノ評価ヲ証書中ニ記載シタルトキニ限ル

第百八十四条 分割者ノ先取特権ハ分割ノ証書ヲ登記スルニ因リテ之ヲ保存ス但其証書ニ不分明物競売代価又ハ補足額若クハ配当ノ過分及ヒ追奪担保ノ評価其他各配当部分ノ負担ノ評価ヲ記載シタルトキニ限ル

第百八十五条 右譲渡又ハ分割ノ証書ノ登記ナキ間ハ取得者又ハ分割者ノ承諾シ又ハ其権利ニ基キテ生シタル物上担保ハ公示シタルトキト雖モ之ヲ以テ先取特権アル債権者又ハ其承継人ニ對抗スルコトヲ得ス但工事ヨリ生スル先取特権アル債権ハ此限ニ在ラス

然レトモ利害関係人ハ原契約者ノ承諾ヲ得スト雖モ常ニ右ノ登記ヲ為サシムルコトヲ得

第百八十六条 譲渡又ハ分割ノ証書ニ其対価物ノ全部若クハ

一分ノ未タ弁済アラサルコト又ハ負担ノ付シ有ルコトヲ記載セサルトキハ日後ノ証書ヲ以テ此脱漏ヲ補フコトヲ得且其証書ハ債権者ノ注意ヲ以テ讓渡又ハ分割ノ証書ト共ニ之ヲ公示スルコトヲ得

右ノ日後ノ証書ヲ讓渡又ハ分割ノ証書ノ登記ト共ニ公示セサルトキハ債権者ハ何時ニテモ抵当ノ章ニ定ムル方式ニ從ヒ要旨ノ記入ヲ以テ其証書ヲ公示スルコトヲ得但此場合ニ於テハ先取特權ハ單純ナル法律上ノ抵当ニ變性ス

右ノ抵当ハ二箇ノ公示ノ間ニ於テ債務者ノ權利ニ基キ物上担保ヲ取得シ且合式ニ之ヲ公示シタル債権者ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

讓渡若クハ分割ノ証書ニ記シタル負担又ハ担保ノ評価ヲ日後ノ証書ニ記載シタルトキモ亦同シ但其証書ノ抵当記入ハ其記入ヲ為シタル日附ニ從ヒテ債権者ノ順位ヲ定ム

第百八十七條 売主其他讓渡人又ハ分割者ノ先取特權カ法律上ノ抵当ニ變性シタルトキハ此抵当ノ記入前ニ讓渡又ハ分割ノ目的タル不動産ニ付テノ物上担保ヲ債務者ノ權利ニ基キテ取得シ且合式ニ保存シタル債権者ヲ害シテ義務不履行ノ為メノ解除訴權ヲ行フコトヲ得ス

第百八十八條 工匠、技師又ハ工事請負人ノ先取特權ハ第百七十八條ニ定メタル第一第二ノ調書ノ記入ヲ以テ之ヲ保存ス

此第一調書ハ工事ヲ始ムル前ニ之ヲ記入スルコトヲ要ス  
第二調書ハ其録製ヨリ一个月内ニ於テ之ヲ記入スルコトヲ要ス

第二調書ノ記入ノ効力ハ第一調書ノ日附ニ遡及シ且工事ノ前又ハ後ニ債務者ト契約シタル各人ニ對シ其増価ニ付テノ優先權ヲ先取特權アル債権者ニ保有セシム

利害關係人中ノ一人ノ為シタル右調書ノ記入ハ委任ナキトキト雖モ他ノ關係人ヲ利シ且總關係人ニ其債権ノ割合ニ応シテ弁済ヲ受クル為メノ同一ノ順位ヲ保有セシム但總テノ者カ有益ノ時期ニ於テ必要ナル疎明ヲ為スコトヲ要ス

第百八十九條 前條ニ指定シタル期間ニ二箇ノ調書中其一ノ記入ヲ為ササリシトキハ先取特權ハ法律上ノ抵当ニ變性シ其順位ハ左ノ日附ヲ以テ之ヲ定ム

第一 工事ノ竣成又ハ絶止ノ時ヨリ三个月内ニ第二調書ヲ録製シ且次月内ニ之ヲ記入シタルトキハ第一調書ノ遅延記入ノ日附

第二 右ノ三个月内ニ第二調書ヲ録製セヌ又ハ三个月内ニ之ヲ録製シタルモ次月内ニ之ヲ記入セサルトキハ其第二調書記入ノ日附

第百九十條 取得、分割又ハ工事ノ為メ初メニ金錢ヲ貸付タル者ノ第百七十九條第一項ニ從ヒテ有スル先取特權ハ売主、分割者又ハ工事請負人ニ於ケルト同一ノ方法ヲ以テ之



ヲ保存ス

右貸主カ後日代位ニ因リテ売主、分割者又ハ工事請負人ニ承継シタルトキ未タ先取特権ノ公示アラサルニ於テハ其貸主ハ主タル証書及ヒ代位証書ノ登記又ハ記入ニ困リテ其公示ヲ為サシム

若シ代位前ニ公示アリタルトキハ貸主ハ登記シタル証書ノ縁辺ニ代位証書ノ附記ヲ請求ス可シ

又先取特権アル債權ヲ讓受ケタル者ハ讓渡証書ノ附記ヲ請求ス可シ

此末ノ二箇ノ場合ニ於テ附記ヲ為サシムルコトヲ遲延シタル代位者又ハ讓受人ハ其以前善意ニテ債務者又ハ其承継人ト原債權者トノ間ニ為シタル弁済其他ノ免責ノ行為ヲ駁撃スルコトヲ得ス

第百九十一条 上ニ記載シタル如クニ保存シタル先取特権又ハ抵当アル債權ニシテ利息又ハ年金ノ附キタルモノハ利息又ハ年金ノ満期ト為リタル最終ノ二個年分ニ非サレハ元本ト同一ノ順位ニテ配当ニ加入スルコトヲ得ス但満期ノ利息又ハ年金ノ中ニテ二個年以外ノモノノ為メ漸次ニ特別ノ抵当記入ヲ為ス可キ債權者ノ權利ヲ妨ケス

第百九十二条 資産分離ヲ請求スル債權者及ヒ受遺者ハ担保ノ為メ留置セント欲スル財産ニ付キ相続ノ發開ヨリ六個月内ニ其債權又ハ遺贈ヲ記入スルコトヲ要ス

其記入ニハ債權又ハ遺贈ノ額ト其記入ヲ為ス主旨トヲ附記スルコトヲ要ス

相続人ノ權利ニ基キ右ノ期間ニ為シタル記入又ハ登記ハ分離請求者ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス但工事請負人ノ先取特権ニ関シ次条ニ記載スルモノハ此限ニ在ラス

第百九十三条 不動産ニ付キ先取特権アル債權者間ノ相互ノ優先權ハ左ノ順序ニ從フ

第一 工匠、技師及ヒ工事請負人但其債權カ後ニ生シタルトキモ亦優先權ヲ有ス

此工事ヨリ生スル増価額カ右ノ各人ニ全ク弁済スルニ足ラサル場合ニ於テハ債權ノ割合ニ応シ同一ノ順位ニテ其配当加入ヲ定ム

第二 讓渡人又ハ分割者

逐次ノ讓渡又ハ分割ノ場合ニ於テハ優先權ハ債權者間最モ旧キ者ニ屬ス

金錢ノ貸主ハ或ハ初ヨリ或ハ合意上ノ代位ニ因リ其金錢ニテ全部又ハ一分ノ弁済ヲ受ケタル債權者ト同一ノ順位ヲ有ス

資産ノ分離ヲ請求スル債權者及ヒ受遺者ハ死亡者ノ遺産ニ付キ其遺産カ相続人ニ歸シタル後之ニ増価ヲ与ヘタル工匠、技師及ヒ工事請負人ノミニ先ンセラル

資産ノ分離ハ死亡者ノ債權者間及ヒ受遺者間ノ相互ノ權利

ヲ変更セス

第九十四條 先取特權ノ記入及ヒ其更新、抹殺、減少ニ関スル規則ハ先取特權及ヒ抵当權ニ共通ニシテ之ヲ次章ニ規定ス

第三款 第三所持者ニ対スル不動産先取特權ノ効力

第九十五條 合式ニ公示シタル先取特權ハ其負擔アル不動産ニ付キ第三所持者ノ方ニマテ追及ス

第三所持者カ下ニ定ムル方法ノ一ニ依リテ先取特權アル債權者ニ弁済セサルトキハ其債權者ハ第三所持者ニ対シ其不動産ヲ差押ヘ之ヲ競売ニ付スルコトヲ得

第九十六條 一般ノ先取特權ハ第三所持者ノ取得證書ノ登記前ニ之ヲ記入シタルトキニ非サレハ其第三所持者ニ移轉シタル不動産ニ付キ追及權ヲ与ヘス

第九十七條 転得者ノ證書ノ登記前ニ登記セサル讓渡又ハ分割ニ因リテ先取特權ヲ有スル債權者ハ其先取特權ノ生シタル證書ヲ登記スルコトニ付キ転得者ヨリ催告ヲ受ケタレトモ一个月内ニ其登記ヲ為ササリシトキニ非サレハ追及權ヲ失ハス但此一个月内ニ距離ニ応シテ法律上ノ期間ヲ加フ然レトモ転得者ハ其讓渡人カ十年以上不動産ニ付キ法定ノ占有ヲ為シタルトキハ右ノ催告ヲ為スノ責ナク且旧所有者ノ総テノ先取特權ヲ免カル

第九十八條 工事ニ因リ先取特權ヲ有スル債權者ハ工事ノ竣成又ハ其絶止ノ前ニ讓渡アリテ其證書ノ登記アリタルモ第一調書ノ記入ニ依リテ追及權ヲ行フコトヲ得

工事ノ竣成シ又ハ絶止シタルトキ第二調書ノ録製及ヒ記入ノ二箇ノ期間カ未タ経過セサルニ於テハ右ノ債權者ハ此期間ノ滿了後又ハ第二調書ヲ録製シ且記入ス可キ催告ヲ受ケタルモ一个月ノ期間ニ之ニ応セサリシ後ニ非サレハ先取特權ヲ失ハス

第九十九條 追及權ヲ保存シ及ヒ之ヲ行フ為メニ必要ナル公示ヲ為ササル先取特權アル債權者ハ第三所持者ノ負擔シタル讓受代価ニ付キ優先權ヲ失ハス但代価ノ弁済前又ハ順序配当手続ノ閉鎖前ニ自ラ債權者タルコトヲ知ラシメ且其債權ヲ証シタルトキニ限ル

第二百條 先取特權ニ関スル追及權、其条件、効力并ニ第三所持者カ所有權徵収ヲ避クルノ方法及ヒ先取特權消滅ノ原因ハ次章ノ第三節第五節乃至第七節ノ規定ニ從フ但先取特權ノ固有ノ規則ニ反スルモノハ此限ニ在ラス

(この項未完)

注(一) 活版印刷。目錄六丁、本文八一丁および正誤表から成る。作成時期等は不明。体裁は資料二一―二三、二五と同じである。復刻されていないようなので、全文を採

録することにした。ただし、紙幅の都合上、目録および  
成立した民法（明治三三年法律二八号。以下、「成案」  
と略称）と同一内容の案文は省略した。正誤表の記載は  
本文中に組み込んだ。